特集

地震対策まったなし!!

問い合わせ：建築物安全推進室（☎51・2579）、防災危機管理課（☎51・3116）

今年4月14日・16日に相次いで発生した熊本県熊本地方を震源とする地震（熊本地震）では、多くの木造住宅が倒壊し、建物の下敷きになるなどたくさんの方が命を落とされました。

将来発生する可能性のある「南海トラフ巨大地震」では、豊橋市内の5400棟を超える建物が地震の揺れで全壊し、その多くが木造住宅であるという予測がされています。

これまで経験した地震被害から学び、住まいの耐震性を高め命を守るための備えを行うことが急務となっています。

熊本地震で倒壊した建物

あなたの住まいは大丈夫ですか？

大地震時の建物の倒壊から命を守るためには、まず住まいの耐震性を知ることが重要です。

耐震性の低い建物はみなさんの生命や財産を脅（おびや）かすだけでなく、倒壊した建物のがれきにより避難路や緊急輸送道路を塞（ふさ）いでしまうなど避難救助活動の障害や、避難所生活の長期化につながることにもなります。

市では、このような耐震性の低い恐れがある昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅を対象に、無料で耐震診断を行っています。市役所から派遣した専門家が、地盤や基礎・建物の形・壁の割合などを調査して、住まいの耐震性を総合的に評価します。また、木造以外の住宅には、耐震診断費用の一部を補助する制度がありますので、ご活用ください。

建築物安全推進室 室長 宮地淳行

我が家のここが危険！見回して改善しよう

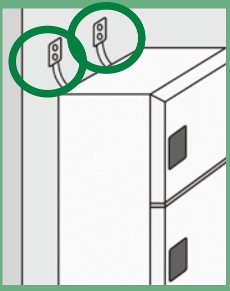
地震の時は、建物が無事でも私たちの生活に欠かせない家具や家電製品が、「凶器」となって襲ってくることがあります。

地震の瞬間や直後は、普段の考えや想像していることが即実行できるとは限りません。倒れるような家具を置かないこと、防災のための工夫を凝（こ）らしておくなど、事前に対策をしておきましょう。

■テレビ・電子レンジ・冷蔵庫

災害時→飛んでくる

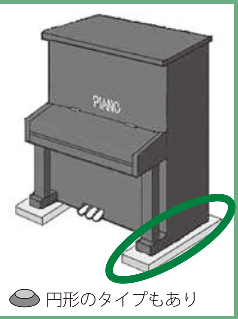
対策→ベルト、チェーンを使い固定する



■ピアノ・キャスター付き家具

災害時→部屋の中を走り回る

対策→固定する、キャスターを外す



■建物の倒壊から命を守るために

南海トラフ巨大地震による豊橋市の震度は、過去最大モデルで震度5強～6強と予測されています。

左図は、木造住宅の耐震診断の判定値と、地震の震度ごとの建物被害の関係を示しています。昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅は、耐震診断の判定値が1.0未満のものが多く、倒壊、大破などの大被害を受ける怖れが高いと考えられます。

また、耐震性の低い木造住宅であっても、壁の補強や増設などの耐震改修を行い判定値を高めることで、地震による被害が軽減し建物の倒壊から命を守ることができます。

■木造住宅の耐震診断の判定値と地震による建物被害の関係

被害＼震度	5弱	5強	6弱	6強	7
無被害	1.0 1.3	1.3			
小　破	0.4 0.7	1.0	1.3		
中　破		0.7	1.0	1.3	
大　破		0.4	0.7	0.7 1.0	1.3
倒　壊			0.4	0.4	1.0 0.4 0.7

図の出典：パンフレット「木造住宅の耐震リフォーム」
監修・製作：名古屋工業大学建築・デザイン工学科井戸田研究室ほか

■命を守る家づくりのための支援制度

市では耐震診断の結果、倒壊する可能性があると評価された住宅の耐震性を高める工事などに対して、費用の一部を補助しています。

■命を守る家づくりのための支援制度

補助金名	補助対象工事の概要	補助上限額
木造住宅耐震改修費補助金	判定値が 1.0 未満の木造住宅を、耐震改修により 1.0 以上とする工事	90 万円
木造住宅段階的耐震改修費補助金	判定値が 0.7 未満の木造住宅を、２段階に分けて耐震改修を行う工事	60 万円（1 段階目） 30 万円（2 段階目）
木造住宅解体工事費補助金	判定値が 0.7 未満の木造住宅を、建て替えなどのために取り壊す工事	20 万円
非木造住宅耐震改修費補助金	木造以外の住宅の、耐震改修設計および耐震改修工事	構造、規模により異なります
耐震シェルター整備費補助金	判定値が 1.0 未満の木造住宅で、高齢者などが居住している世帯に耐震シェルターを設置する工事	30 万円

■耐震出前講座を行っています

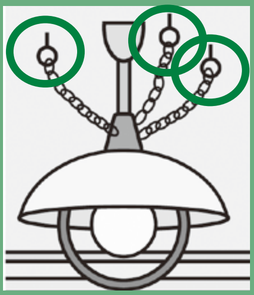
住宅の耐震化・家具固定など住まいの耐震化に向けた意識啓発のための出前講座の依頼も受けています。お気軽に建築物安全推進室にご相談ください。

■ガラス窓

災害時→割れて破片が散乱する
対策→ガラス飛散防止フィルムを貼る

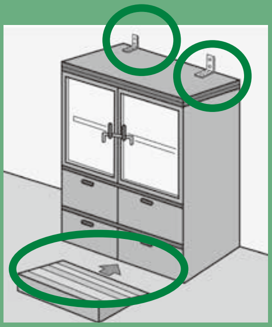
■吊下げ照明・掛け時計

災害時→落ちて割れる
対策→チェーンやワイヤーなどを取り付ける



■タンス・食器棚・本棚

災害時→転倒して中のものが飛び出す
対策→L字金具で固定し、ストッパーを敷く



この他にも固定方法はあります。少しでも地震の被害を小さくするために、今から取り組んでみましょう。